

# 第5学年 外国語活動学習指導案

1組 計31人(男子14人,女子17人)

指導者 中尾 ともよ

## 1 単元 発見！友達キラリポイント～「友達図鑑」を作ろう！～

(We can! 1 Unit 5 「She can run fast. He can jump high.」～できること～)

## 2 単元の目標

- 自分や友達のできることやできないことの表現の仕方について理解するとともに、できることやできないことを尋ねたり、答えたりする技能を身に付ける。【知識及び技能】
- 自分や友達のできることやできないことを伝え合っている。【思考力・判断力・表現力等】
- 自分や友達について、相手の理解を確かめたり相手が言ったことを共感的に受け止めたりしながら、できることやできないことを尋ねたり、答えたりしようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

## 3 単元で目指す子供の姿

主体性	できることやできないことを尋ねたり、答えたりする表現を使って、自信をもってコミュニケーションを図ろうとし、英語を使ったやり取りの楽しさを味わっている。
協働性	自分の考えや気持ちを友達と伝え合うことで、互いの表現のよさに気付いたり、よりよい表現に対する考えを深めたりしている。
創造性	できることやできないことを尋ねたり、答えたりする表現と既得の知識とを組み合わせ、目的や状況に合わせて適切な言語材料を活用しようとしている。

## 4 単元について

### (1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、楽しみながら歌・ゲーム・チャンツ・インタビュー等の学習活動に取り組むことで、あいさつの仕方や数の数え方、好きなものや欲しいものなどを伝える基本的な表現を学習し、それらを用いて話したり、聞いたりしながら英語に慣れ親しんできている。このような学習を通して、自分の考えや気持ちを相手に伝えることの楽しさを味わいながら、英語を使って相手ともっとコミュニケーションを図りたいという意欲が高まっている。

そこで、本単元では学級の友達のできることやできないこと、友達の好きなことなどを紹介する「友達図鑑」を作ることを単元のゴールとし、子供たちが相手や目的を意識して、できることやできないことを進んで尋ねたり、答えたりして伝え合うことができるようにしたい。その中で、相手の表情や応答から自分の考えや気持ちが伝わっているか確かめながら話せるようにする。また、うなずいたり、相手の言葉を共感的に受け止めたりしながら聞くことができるようにする。そして、友達にインタビューしたり互いに紹介し合ったりすることで学級の友達への理解を深め、認め合える学級づくりに繋げていきたい。

本単元で培ったできることやできないことを尋ねたり、答えたりする表現は、第6学年の We can! 2 Unit 1 「This is ME.～自己紹介～」の、より詳しく自分のことを伝えたり、相手のことを知ったりする学習へとつながっていく。

### (2) 教材について

本教材は、自分や友達のできることやできないこと、好きなものなどが紹介された思い出に残る「友達図鑑」を作るという活動である。子供たちはこの活動を通して、友達のできることやできないことを進んで尋ねたり、友達らしさを知るために質問を工夫したりする。また、友達からインタビューされることで自分のできることやできないこと、好きなことなどを答えたいという思いを高めることができる。指導計画ではまず「I can/can't.」の表現を使った自己紹介を行う。次に、本単元で初めて出会う三人称「He/She」を使った他者紹介を通して、できることやできないことを聞いたり伝えたりする表現に十分慣れ親しませる。そして、「He/She can.」を用いた「友達当てクイズ」を行い、「友達図鑑」に添付する友達の写真を集めながらクイズを出したり、答えたりする。さらに、「友達図鑑」をより詳しくすることで、「How many?」や「long/short」などの既得の知識を活用しながら積極的に友達とやり取りを行い、英語でコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができるようにする。

これらのことから、本教材は、自分や友達について相手の理解を確かめたり相手が言ったことを共感的に受け止めたりしながら、できることやできないことを尋ねたり、答えたりするという単元のねらいを達成するにふさわしい教材だと考える。

(3) 子供の実態 (調査日 平成30年8月1日 調査人数 30人)

本単元の内容に関わる子供の実態は、以下のとおりである。(数字は人数)

外国語活動に関する興味・関心について			
① 外国語活動は「楽しい」、「やりたい」と思うか。	・ よく思う (16)	・ 思う (11)	・ あまり思わない (3) ・ 思わない (0)
② 外国語を話せるようになりたいか。	・ よく思う (21)	・ 思う (8)	・ あまり思わない (1) ・ 思わない (0)
③ 外国語活動のとき、自信をもって英語でやり取りできていますか。	・ よく思う (6)	・ 思う (11)	・ あまり思わない (9) ・ 思わない (4)
④ 外国語活動で好きな活動は何か。(複数回答)	・ ゲームをすること (21)	・ 外国のことを知ること (17)	
	・ チャンツを言うこと (12)	・ 新しい単語や表現を知ること (11)	
	・ 友達とインタビュー活動をすること (10)	・ 先生やAEA, みんなの前で話すこと (4)	
本単元の学習への意識について			
⑤ 誰を紹介したいか。	・ 友達 (17)	・ 家族 (9)	・ 有名人 (4)
⑥ 特技を表す英単語で、知っているものは何か。(複数回答)	・ サッカー (23)	・ 野球 (23)	・ バレーボール (20) ・ 泳ぐ (20)
	・ 卓球 (19)	・ 歌う (18)	・ ピアノ (18) ・ 走る (12)
	・ 料理をすること (8)	・ 跳ぶ (8)	

以上の実態から、本学級では外国語活動をゲームが楽しいから、外国のことを知りたいからという理由で「楽しい」、「やりたい」と考えている子供が多い一方、間違っているかもしれない、恥ずかしいという理由から外国語でのやり取りに自信がないという子供もいる。そこで、本単元の指導に当たって以下のような手立てを行うことにする。

5 指導に当たって

(1) 主体的な学びを実現する教師の手立て

「友達図鑑」を作るという単元のゴールを設定し、思い出に残る「友達図鑑」を作るという目的をもたせることで、友達のできることやできないことを積極的にインタビューしようとする意欲を高めるようにする。そして、そのためには自分のできることやできないことも伝えるという必要感をもたせるようにする。また、目的や場面に応じたチャンツを活用し、音声と意味を繋げて理解したり、リズムに合わせて楽しみながら自然な発音やイントネーションに慣れ親しんだりすることで、自分の考えや気持ちを、自信をもって伝えようとするができるようにする。さらに、「振り返りカード」にできるようになったことやもっと工夫したいことなどを記入させ、称賛することで自己の学びを自覚したり、次時への意欲を高めたりできるようにする。

(2) 対話的な学びを実現する教師の手立て

コミュニケーション図る際は、必要に応じて全体で話し合う時間を設定する。活動前では、コミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させ、どのような表現が適切か話し合い、見通しをもつことができるようにする。「1 up time」では、上手に伝えられた表現や友達のよい表現を全体で共有することで、適切な言語材料を選択し、後半の活動で実践できるようにする。また、どのように表現したらよいか分からなかった言葉やもっと知りたい表現についても別の言葉での言い換えを全体で考えさせ、子供たちが既得の知識や新たな知識を言語活動で活用できるようにする。活動後では、単元で学んだ表現が幅広い場面で使えることに気付かせ、次時の活動や実際のコミュニケーション場面で使ってみたいという思いを高めるようにする。

(3) 深い学びを実現する教師の手立て

自分のできることやできないことを伝える自己紹介や、友達のできることやできないことをインタビューして尋ねたり、答えたりする他者紹介を行うことで、「I can ~.」や「He/She can ~.」などの表現に十分慣れ親しませる。そして、「友達当てクイズ」を設定することで、「How many ~?」や「long/short」など、既得の知識を目的や場面、状況等に応じて活用しながらコミュニケーションを図ることができるようにする。また、相手の意見を共感的に受け止めたりコミュニケーションを継続させたりするための表現に慣れ親しませ、活動の中で活用できるように「That's good.」, 「Really?」等、反応する表現を集めたオリジナルの「1up チャンツ」を毎時間行う。さらに、知っている英語やジェスチャー等を用いて自分の考えや気持ちを伝えようとする態度を高めるために「言ってQタイム」を設定し、例えば「きりん」を「neck」や「long」, 「animal」等の単語を使って伝えることで既得の知識を活用できるようにする。

6 指導・評価計画（全8時間）

時間	主な学習活動【 】慣れ親しむ表現	子供の反応	教師の手立て【◆】重点評価項目
意欲をもつ(1)  慣れ親しむ(4)  広げる・深める(3)	1 動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知り、学習計画を立てよう。 ・ 人物当てゲームをする。 ・ できることを伝え合う。 ・ 単元のゴールと学習計画を立てる。 発見！友達キラリポイント～「友達図鑑」を作ろう！～ 【動作を表す語や“I can～.”と“I can’t～.”の表現】	can や can’t を使えば、できることやできないことを表現できるね。  友達のできることやできないことをたくさん知りたいな。	○ 教師作成の「山下小先生図鑑」を基に人物当てクイズをし、子供たちが意欲的に「単元のゴール」を設定できるようにする。 ◆ 自分や友達のできることやできないことを紹介できるようになりたいという課題意識を高めている。 【主体的に学習に取り組む態度：発言、ワークシート】
	2 できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知ろう。 ・ できることやできないことを予想して、尋ねたり答えたりする。(p. 37) 【動作を表す語や“Can you～?”と“Yes, I can./No, I can’t.”の表現】	Can you～? の表現を使うと、できることを尋ねることができるね。	○ 友達にインタビューし、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 ◆ 動作を表す英単語や“I can/can’t～.” “Can you～?” の表現を使って自己紹介をしている。 【思考・判断・表現：活動の様子】
	3 できることやできないことを尋ねたり答えたりして自己紹介をしよう。 ・ 自分との相違を確認するために質問しながら自己紹介をする。	自分のできることを伝えられたよ。友達のできることも知ることができたよ。	○ 「山下小先生クイズ」で He や She の使い方に慣れさせる。 ◆ He と She の使い分けに気付いている。 【知識・技能：発言】
	4 友達のできることやできないことを紹介する表現を知ろう。 ・ 第三者を紹介する表現を知る。 【動作を表す語や“He/She can～.”と“He/She can’t～.”の表現や“Can he/she～?”と“Yes, he/she can./No, he/she can’t.”の表現】	男性には He, 女性には She を使うんだね。	○ 友達を特徴づけるヒントを得るための質問の工夫を全体で確認する。 ◆ “Can you～?” の表現を使ってインタビューしている。 【思考・判断・表現：活動の様子】
	5 友達のできることやできないことをインタビューしよう。 ・ 「友達当てクイズ」で紹介するヒントを探すためのインタビューを行う。	たくさん質問して、クイズのヒントを集めることができたよ。	○ 適切な質問やヒントの出し方を考え、工夫して尋ねたり答えたりできるようにする。 ◆ 目的・状況に応じて質問の仕方を工夫している。 【思考・判断・表現：発言、活動の様子】
	6 「友達当てクイズ」の準備をしよう。 ・ インタビューをしたことを紹介シートにまとめ、「友達当てクイズ」の練習をする。	どんな表現を使ってクイズを出せばよいか。	○ 「友達図鑑」の紙面を工夫し、インタビューする意欲を高めるようにする。 ◆ 本単元で学習した表現や既習表現を用いて、積極的にインタビューしている。 【主体的に学習に取り組む態度：活動の様子】
	7 「友達当てクイズ」をしよう。(本時) ・ “Can he/she～?” の表現や, “long/short”等の既得の知識を使って質問の仕方を工夫し, 「友達当てクイズ」に答える。 【これまでに学習した表現や, “That’s right.” “Close.”等反応する表現】	知っている言葉や習った表現を使って, クイズに答えることができたよ。	
	8 「友達図鑑」をもっとくわしくしよう。 ・ “Can you～?” や “What～do you like?”, “How many～?” 等の既得の知識を使って本人にインタビューを行い, 分かったことを「友達図鑑」に書き込んでいく。	友達のいろいろなことを知ることができて, とても詳しい「友達図鑑」になったよ。	
新たな学び	第6学年外国語活動 We can! 2 Unit 1 「This is ME.～自己紹介～」 ・ 自己紹介で自分の好きなことやできることなどについて伝え合う。	前よりも詳しく自分のことを紹介できたよ。	○ 自己紹介に関する表現や好きなこと, できることなどを工夫して紹介することができる。

7 本 時 (7/8)

- (1) 目 標 友達についてできることやできないことを工夫して尋ねたり答えたりする。  
 (2) 展 開 □ 教師の言葉掛け □ 子供の反応 ◆ 重点評価項目 ☆ ICT 活用上の留意点

過程	主な学習活動と予想される子供の反応	教 師 の 指 導
<p>意欲をもつ (10)</p> <p>楽しむ (28)</p> <p>振り返る (7)</p>	<p>1 チャンツをし、前時とのつながりを自覚する。                      (1) 「Can you sing well?」                      (2) 1 up チャンツ                      友達にインタビューして、「友達当てクイズ」の準備をしたよ。                      今日「1 up チャンツ」の中の、どの表現を使うことができそうかな。</p> <p>2 教師と「友達クイズ」のデモンストレーションを行う。                      T: She can ~.                      T: She can ~.                      T: She can't ~.                      T: Who is she?                      C: ?                      3 ヒントだけでは分からないよ。                      こういう場合は、どうしたらよいのかな。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。                      質問を工夫して「友達当てクイズ」をしよう。                      できることやできないことを尋ねたり答えたりして、たくさん友達が当てたいな。</p> <p>4 3 ヒントだけでは分からない時、どのようにすればよいか考える。                      質問したり、ヒントをもらったりすればよいんじゃないかな。                      Can he ~? / Can she ~? / Hint, please.</p> <p>5 「友達当てクイズ」①を行う。                      どんなヒントをもらったらいいのだろう。                      英語で、何と質問したらいいのだろう。</p> <p>6 「1 up time」活動して気付いたことを交流する。                      できることやできないことのヒントだけでは分からない時があったよ。                      何がヒントになりそうかな。                      見た目の特徴、地域、兄弟はどうか。                      クイズの途中で困ったことや知りたい表現はなかったかな。</p> <p>7 「友達当てクイズ」② (後半) を行う。</p> <p>8 本時の学習について振り返り、本単元で学んだ表現を生かす場面について考える。                      (1) 本時の振り返りをする。                      友達のできることについて知ることができたよ。                      いろいろな英語を使って友達の写真を集めることができたよ。                      (2) 本単元で学んだ表現が使える場面を考え、意欲を高める。                      自己紹介の時に使えそうだよ。                      自分のことをより分かってもらえそうだね。</p>	<p>☆ デジタル教材を使ってチャンツを行うことで、音声と意味を繋げて理解できるようにする。また、リズムに合わせて楽しみながら自然な発音やイントネーションに慣れ親しむことで、自信をもってコミュニケーションを図ることができるようにする。 【主】</p> <p>○ 教師作成の「山下小先生図鑑」を提示し、「友達図鑑」を作るために必要なことをインタビューしようとする目的意識を高めるようにする。 【主】</p> <p>○ 前時まで作成した友達紹介カードをもとに「友達当てクイズ」を行い、正解したら「友達図鑑」に添付する顔写真を交換することで、意欲をもって活動できるようにする。 【主】</p> <p>○ 3 ヒントだけでは分からない課題を含んだモデルを示すことで、質問を工夫する必要があることに気付くようにする。 【主】</p> <p>○ ヒントになりそうなことを全体で話し合い、“How many ~?” や “like ~” などの既習の表現や既存の知識を活用できるようにする。 【対】</p> <p>○ 「友達当てクイズ」で役に立った表現や工夫したことを発表させることで、よりよい表現に対する考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【対】 【深】</p> <p>○ 表現に困った言葉を伝える方法について話し合わせることで、別の手段を用いて何とか自分の考えや気持ちを伝えようとするようにする。 【対】 【深】</p> <p>◆ できることやできないことの尋ね方や答え方を工夫している。 【思考・判断・表現：発言，ワークシート】</p> <p>◆ 相手の理解を確かめながら話したり、相手が言ったことを共感的に受け止める言葉を返しながら聞いたりしている。 【思考・判断・表現：表情，発言】</p> <p>○ 「振り返りカード」に、できるようになったことや友達への新しい気づきを記入し、自己の学びを自覚できるようにする。また、インタビューで工夫したことや初めて使った表現、役に立った表現などを発表することで、今後のインタビューで活用出来るようにする。 【深】</p> <p>☆ 本単元で学んだ表現が使える具体的な場面を考えることで、実際のコミュニケーションで使ってみたいという意欲を高めることができるようにする。 【深】</p>

5学年「発見！友達キラリポイント『友達図鑑』を作ろう」本時（7／8）における授業構想シート

本時で期待される子供の姿

主体性	できることやできないことを質問したり答えたりする表現を使って、自信をもってコミュニケーションを図ろうとし、英語を使ったやり取りの楽しさを味わっている。
協働性	クイズで友達の特徴を伝え合ったり、クイズに正解するための工夫を友達と伝え合うことで、適切な言語材料に気付いたり、よりよい表現に対する考えを深めたりしている。
創造性	できることやできないことを質問したり答えたりする表現と、既得の知識とを組み合わせ、クイズに正解するための適切な言語材料を活用しようとしている。

本時で育成を目指す資質・能力

「友達当てクイズ」に答えるために、適切な言語材料を活用し、工夫して尋ねたり答えたりしようとする。  
【思考・判断・表現】

本時で働かせたい「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

【視点】

【思考の枠組み（方法）】

目的や状況、場面等に注目して、質問やヒントの出し方、答え方の表現を既得の知識と関係付けて考える。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせた子供の発言の想定と教師の言葉掛け

課題解決で働く「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」



3ヒントでは分からない時、どのようなことをヒントにしたら友達を当てることができるでしょうか。

髪の毛の長さはヒントになると思うので、“hair”と、“long”や“short”という英語が使えないかな。

“How many brothers?”と言って兄弟の数を尋ねたらどうかな。



友達のクイズの出し方や答え方で良いところはどんなところでしたか。

僕は、〇〇の英語の言い方を知らなかったのですが、〇〇君がジェスチャーで表してくれたから分かりました。〇〇の英語を初めて知りました。



困ったことや、英語でもっとこう言いたかったという表現はありませんでしたか。

正解したら「正解！」惜しかったら「惜しい！」と言えたらもっと楽しくなりそうだよ！

「正解！」は“That’s right.”と言えればいいんじゃないかな。

「惜しい」はどう言えばよいのかな。



「惜しい！」は、“close!”という表現を使えばよいですよ。それでは今、みんなで考えた表現の一つをも多く使って、クイズ大会の後半を楽しみましょう。

目的や場面、状況等に応じて既得の知識を相互に関連付け、適切な言語材料を活用することで自分の思いを伝え、必要な情報を得ることができる。

言語でコミュニケーションを図る難しさや大切さを感じさせ、言語への興味・関心を高める。また、非言語コミュニケーションの有用性を理解する。

コミュニケーションを円滑に図るためには、相手の理解を確かめたり、相手が言ったことを共感的に受け止めたりする表現を活用することが大切だということを理解する。

振り返りにおいて期待される子供の発言や記述

- 「友達図鑑」に貼る写真を集めるために、canを使ってたくさんクイズを出したり答えたりしたよ。
- クイズに答えるために知っている言葉や習った表現をたくさん使ったよ。
- 〇〇君/さんはこんなことができてるすごいね。みんなのことを前よりもっと知ることができたよ。